

マルセ太郎のエッセイ

恋なんて簡単よ

『天井桟敷の人々』と僕

リオン座で観(み)た。新劇俳優を志して、やがて上京したが、七つの劇団すべての試験に落ちて希望がかなえられず、現在あるように芸人の道に転じたのである。

潜在的なきつかけは、この映画にあった。僕はこの映画で初めて、パントマイムという芸を知った。窃盗の疑いをかけられたギャランスのため、パチスト(ジャン・ルイ・パロー)が、パントマイムで無実を証言する。そのマイムを真似(まね)て、同級生たちに見せて遊んだ。その後、来日したマルセル・マルソーの公演を観て、一九五六年、日劇ミュージックホールに、パントマイムでデビューしたのである。由(よ)って、マルセ太郎と名付けられた。

名画「天井桟敷の人々」の監督マルセル・カルネが九十歳で死去した。新聞でそのことを知るまで、僕はうかつにも、とくに故人になつていないものとはかり思っていた。それほど遠い昔の映画であり、ずっと長く僕の心に巣食ってきたのである。「天井桟敷」は僕の青春だった。このことは、昭和一ケタ生まれの世代なら、多くの人が同感してくれるだろう。

高校卒業の年に、たしか日本での封切りは一九五二年だったと思う。僕自身高校を卒業した年で、大阪の千日前にあったオ



十年ほど前から、「スクリーンのない映画館」のタイトルで、一本の映画を丸ごと語り演じるという芸をやってきており、「天井桟敷」もレパートリーに入っている。

刺激的なセリフ
フランス映画はことに、知的なセリフがふんだんに出てくるが、「天井桟敷」はまさにその宝庫である。初めてギャランスとパチストがキスを交わしたとき、震えるパチストの耳元でギャランスがささやく。

「恋なんて簡単よ」
このセリフは、高校を出たばかりの僕には刺激的だった。いまでは死語になっているだろう、プラトニッククラブを信じていた思春期の僕は、

女が不可解に思えて悩んだ。ギャランスがパチストを愛しながら、軽薄なフレドリックと同棲(どうせい)するのが理解できず、パチストに同情し、フレドリックを憎んだ。また、僕の周りにもいた、多くのフレドリックを憎んだのである。

自分の姿重ねて

大人になつてから、これが逆転した。ギャランスの誘いに応(こた)えず、彼女を抱きもしないで部屋を去るパチストが、アホに思え、そのことに、若い頃の自分の姿を重ねた。

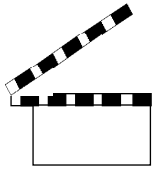
「恋なんて簡単よ」

ああ、もっと早くこのことを分かっていたらよかったのにと、今更のように後悔している。

三年前に初めて芝居を書き、自分も出演して渋谷ジャンジャンで上演した。公演は成功で、楽日のカーテシコールで挨拶(あいさつ)する言葉も、前もって考えていた。

「芝居なんて簡単よ」

しかし、となりに立っている、俳優歴四十年の納谷朗さんの顔を見たら、言えなかった。やっぱりおれはパチストだ。



俺にまかせろ



富山公演の首謀者 村田さんです。本物の酒にこだわって、つまり自分が飲みたくて脱サラして酒場を始めたオジサンです。マルセ太郎に本物の酒をのませたくて「マルセ太郎初ライブ」の打ち上げを自分の店でしたのです。

村田「マルセさん、これが

あの、幻の酒・・・」

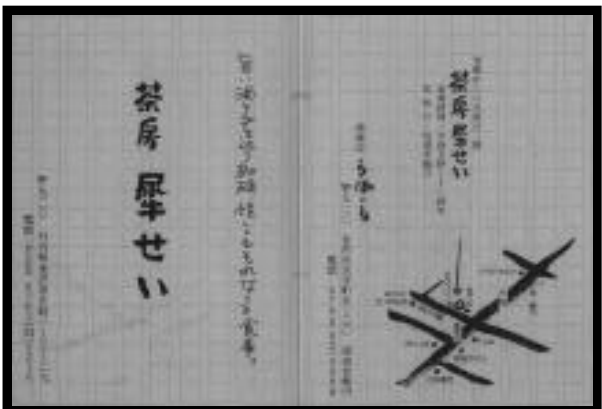
マルセ「あっ！僕はウイスキー

の水割り下さい。」

村田「・・・」

中毒患者の皆さん！間違つても村田さんの店で水割りは注文しないで下さい。

お店は真酒亭(4面の広告参照)



食文化といひます
お客様・友人と団樂の
花を咲かせて下さい



北料理 康々亭

本日はどうもありがとうございました

またのお越しをおまちしています

営業時間 AM11:00~PM2:00 日曜日オール営業

PM 5:00~PM9:00 月曜日 休業

瀬戸市西原町1の1 TEL 84-6644

語り部のうた

—マルセ太郎に—

えつぐ・まもる(神戸市)
「俳句人」兵庫支部長

男は遠くを見ていた
美しいものがいとほしいものが
壊されてゆくことの忿りに
瞳の奥でマグマの炎をゆらしていた
痩せ細った肉体を
辛うじて支えている二本の足は
ひたすらに前へ前へ歩きつづけよう
とする

にんげんがにんげんであるための
最果ての地点から

ああ
未来を支える命がほしい
みどりに満ちたこの国土に
せめて確かな明日の予感が訪れる日
まで

傷ついた声帯を絞って
男は優しい挽歌を
うたいつづける



「咲かせまじょう じゃないの」

名古屋市・鳥居恭好

「さる」12月某日夜「花
咲く家の物語」を上演する
会(名古屋)の何度目かの
ミーティングが華々しく
挙行されました。東京から
は「花咲く家の物語」の総
合プロデューサー篠原さ
ん、マルセさんの旅公演の
パートナー内田さん、そし
て「さるさる」
編集長も御来名。「さる」
(略)迎える名古屋勢は、
名古屋演劇会の顔・大須七
ツ寺共同スタジオの二村
さん、上演する会会長森さ
ん、事務局局長水谷さん、
外波山さんと沼野さんと、

不肖ワタクシ。

華々しく挙行といっても、東京組
が滞在しているホテル(名古屋の街
中)にあつてな
ぜか温泉が出る謎のホテル)の喫茶
室(コーヒー330円だとか妙に安い
謎の喫茶室)でダベるといふ、実務
第一の会でした。が、なにしろ二村
さんを除けば名古屋勢は素人揃い。
脱線する話を再三にわたって捕ま
え、とにかく大凡のことが一応の決
定を見ることになりました。

そして場所を移して懇親会(?)。
どこかにウワバミが隠れているぞな
どと思いつつ話が弾む。

某国営放送が今回の公演に興味を
示したものの、すでに春から某地民
放局が密着取材を続けているため断
念したこと、97年1月のマルセ太郎
の大須単独公演は大須初の二夜連続
であること、また本紙編集長の隠さ
れた過去など、話を聞いているうち
に公演の成功を確信したワタクシで
あります。

水谷さんから届いた今夜のため水
谷さんから届いた召集令状には「初
夏には大きな花を咲かせまじょう」
とありました。そうそう。北陸から
東京、そして西へと、大輪の愉快な
花を咲かせまじょうじゃないの、ね
えみなさん。

「花咲く家の物語」名古屋公演
日時・1997年5月8日(木) 午後
6時30分開場 午後7時開演
場所—名古屋芸術創造センター
名古屋市中区葵一丁目3番27号
phone: 052-931-1811

坂屋とデパートだらけだ。小売店が
大事にされているというのはいいこ
とだな。」等々。

スタッフの一人は、「マルセさん
で好奇心旺盛で、渋谷辺りをうろつ
いている若者よりよっぽど若いです
ね。」と感心していた。「ニューヨ
クが似合っていますよ。」という言
葉は父を気分良くさせたようだ。私
から見ても街を歩く姿に違和感はな
い。周りの風景に同化して、まるで
何十年もそこに住んでいる人間のよ
うだ。

こんな事があつた。撮影の合い間
にコーヒーが飲みたくなり、近くの
喫茶店に入るようになったのだが
入り口で追い出されるのではないか
とドキドキした。というのも父は映
画の扮装のままだったからだ。
ニューヨークに住む日本人浮浪者ケ
ンという役で、ボロボロの袈裟を着
て殴られるシーンのため目のまわり
を黒く塗っていた。ここが東京なら

料金。前売り3800円 当日4300円
(高校生以下2800円、当日のみ)
全席自由(整理券は発行いたしませ
ん)
「前売・お問い合わせ」
・七ツ寺演劇情報センター
(11:00am~8:00pm、火曜定休)
名古屋市中区大須二丁目28
番12号 phone/fax: 052-221-
1318
・水谷(上演実行委) phone/fax:
052-202-1339

ば周りの客にジロジロ見られ、店員
に一言一言何かしら言われるだろ
う。ドキドキしつつ遊び心からワク
ワクしながら私達は店へ入って行つ
た。ところが、テーブルに座ってい
る客は誰一人こちらを振り向か
ない。拍子抜けしていると、ウエイ
レスがやって来て表情ひとつ変えず
に、「何になさいますか?」だと。
それほどまでに父がニューヨーク
に溶け込んでいたのだろうか。否、
父だけではない。誰でもがニュー
ヨークに来たその日からニューヨ
ーカーになれるのだ。喫茶店での出来
事は、他人に構わない都会の冷たさ
というよりはむしろ、それぞれの個
を主張し認めあふ、自由さ、を感じ
させてくれた。It's FREE, FREE
to do anything that you want.
インスタントニューヨーカー、
マルセ太郎の姿がそこにあつた。
(梨花)

*次回、「マルセ太郎ブルーノートに
てB・Bキングを聴く」の巻

「芝居のうたや二つでゴッたら
いけんよ。なごやーにおみえに
なつたら私にあいさつせんとい
けんよー」



この人が、なごやーの水谷さんです。

病棟日誌

「ここは、ファンの交流の広場です。どしどし投稿をお願いいたします。」

プラザ小劇場とマルセさんの
今、明かされる知られざる関係について

阿部洋子

(川西町フレンドリープラザ)

ここは山形県、川西町という小さな町に「川西町フレンドリープラザ」というキャパ七〇〇の劇場と井上ひささんの蔵書をもとにした遅筆堂文庫と町立図書館が一緒になった施設ができたのは3年前のことでした。

「どうやら新しい劇場はできた。でもそれだけでは始まりません。もっと地域住民が主体的に係われるような何かがほしい。見ることが好きな人達が集まって、自分たちで見たい人を呼べるようなグループを作って良く自分たちの楽しみにしたい。そんな気持ちからプラザ劇場は生まれ、近隣の市や町から食料品店のおかみさん、書店の若旦那、郵便局のお母さん、役場のお姉さん、消防署員などさまざまな人が参加してくれました。」

実はこの企画を考えた時、一番最初にマルセ太郎さんを切望していたのです。以前山形フォーラムとい

う映画館で公演した時、すげえと感動していたので、ここでの旗揚げも絶対マルセさんと決めていたの本物の芸の味、少しでも分かっていただけたのではないかと、密に期待しているのです。

悲願のマルセ公演、ホントにホントにやってよかったあ。

夏休みに「中日新聞」で、成瀬智美さんの投稿が掲載されました。マルセさんの授業のことについて書かれています。もう一度みんな考えてみたいテーマです

「誤った自信がはじめを生む」

成瀬智美

中学生12才

(岐阜県中津川市)

この間、学校の特別授業の話の中で「自信」の話があった。それは「自信を持つことはすくいいことだけど、間違った自信を持つてはいけない」ということだった。自分は人よりも、

か、自分よりあの子の方が下で、私はあの子より、ができて上なんだ、と。そういう自信は間違った自信で、本当の自信は、自分がここにいて、自分の存在を自信に思うということだと言われた。

私はそれを初めて聞いて少し驚いた。が、よく考えてみると、確かにそうだと思う。

悪い自信の方は、そのままだ、いじめになってしまふことだってある。自信というものは、人を困らせた

り、傷つけたりするためにあるのでなく、自分がここにいてということ、誇りに思うことであるためだ。

そして、今までの自分の「自信」は本物かどうか、確かめてみようと思った。

だって自信は、自分の値打ちや、正しさを自分で信じていることなんだから。

威嚇の道具に竹刀を使う教師

箕輪 勝

(山梨県 白州町)

正心の館

前略

すっかり秋ですね。

機関紙「さるさる」ありがとございます。私も中毒患者の一人になりそうです。「剣道」と「マルセ」と言う二つの中毒患者かも知れません。

今やこの菌に勝てる対向菌を発見するのはガンを直すより難しいでしょう。さて、「行儀」を読ませてもらいました。威嚇の道具に竹刀を使う教師、かつて戦時中特高がもった竹刀とどこかだぶって怒りを覚えまじた。マルセさんの遠山の日付はいつも世の中の一部分ではなく大局を見た見識は話術にあらわれ、聴くものに感動と生きる勇気をあたえてくれます。

中毒患者を日本に一人でも増やすために一役も二役もかうつもりです。今後ともよろしくお願いいたします。

ニューヨーク物語

第一話

出発する前では父の体調を気づかした。肝臓には疲れが一番良くない。ふつうの旅でも肝臓への負担は避けられないのに行き先は極寒のニューヨーク、しかも今回の撮影は全て戸外だ。出発の四日前に、猛吹雪に見舞われ市内をスキー板を履いて歩く市民の姿がテレビニュースで伝えられた事も不安を募らせた。

しかし、その心配は見事に裏切られた。ニューヨークでの父の元気なこと、元気なこと。誰もその時を彼を見て、一年前に肝臓がんの手術を受けたとは思わないだろう。

食欲はある方ではなかったのにニューヨークでは朝から良く食べる。ベーグル(ユダヤのパン)を軽く焼き、間にクリームチーズとアボカドを挟んだものがお気に入りだ。

「こっちは本当に、パン」という味がするな。こんなにおいしいのを食べたなら、もう日本でパンを食べられないな。」

顔はどこから見ても米や魚好きの和風なのに、実は父は以前から洋食党であった。外食するならスパゲッティ、ケーキも大好きだ。病気後は母が脂ものを控え、野菜中心の料理にかえていたので、ここに来て一気にその欲が吹き出たようだ。ニュー

ヨークピザにも目がない。ニューヨークの子の真似をして、八分の一に切られたピザをくるくると丸めガブツとかぶりつく。そして「お飲物は？」と聞かれれば、どこに行っても「コーク」と答えていた。「コーラ」でなく、「コーク」と言うあたりが良くいえば順応性がある、まあ言うなれば染まりやすい父の性格ならではの反応で笑ってしまう。それにしてもマルセ太郎と「コーカ・コーラ」、これ程似つかわしくない組み合わせもないだろう。

「梨花、日本のは味が違うぞ。こっちの方がちょっと辛みがあつて、何というか、大人の味だね。ん、うまい。」

普通は六十も過ぎたおじさんといふのは、固まった頭でものを見るので、新しいものに対して「これはこっちのものだ。」と自分で答えを出してしまう。知った風に話をする。だから外国に行っても、結局慣れたものを口にしようとして日本食レストランに向かうのだ。その点では父をおじさんとは呼べない。食に限らず、ニューヨークの不思議を短い滞在の中でもきちんとみつけている。

住んでいる人が見過ごしてしまっていることも多。移動の車の中でマンハッタンの目抜き通りを走り見ながら、

「一階にしか店がない。二階以上は皆住まいか事務所のようだ。それにデパートが全然ない。銀座なら、あつちに高島屋、こっちに松

「わたしもマルセ中

毒の一人です」と

笑いながら言う。

仙台市の、ど真ん

中にある寺「林香

院」(曹洞宗)の、

ご住職「門脇允元」

さんです。

ジャンジャンのマ

ルセ喜劇には、い

つもわざわざ上京

して観てくれます。

9月の「真夏の夜

の哀しみ」にも、

勿論来てくれまし

た。

「ご住職、席を用意

させます」

「いや、結構！私は一番前のかぶり

つきでマルセを見たいから」と言っ

て、その席から悠然と舞台を見上げ

るが、首が痛くならないかと心配

だ。

11月23日(祭)仙台、林香院

で「大法要」あり、特別余興として

山田洋次監督「息子」公演。マネー

ジャヤーの私が同行した。

広い大きな寺で、内外共にきれいな

所は、ご住職の人柄が判るようだ。

本堂に集まった善男善女が「〇〇人

程で、マルセ太郎の漫談から笑いが

はじまる。

「息子」になると、物語が東北(岩

手)だけに、親子の心情場面をマル

セが語ると、他人事ではない、本当

だよ、とばかりマルセの言葉に一斉

に頷く。時には笑って、時にはハン

カチーフを持って目頭を拭く人もい

る。終わって大拍手。みんな満足そ

うな顔をしている。大成功！

別室を会場にして、郷土料理でパー

ティーがはじまる。

鮭の入った味のご飯にイクラを沢山

のせて「はらこ飯」と言つ名物料

理。新鮮な生野菜とお新香。これが

私には最高の味である。

ご住職の司会で、マルセを囲んでの

座談会になる。みんな喜んで近くに

集まって、マルセの独演会に耳を傾

ける。これが他のタレントには出来

ないマルセの芸人魂なのだ。マルセ

中毒患者が又増えたよ！「ご住職あ

りがとうございました。



第二弾！ 97年春 発売予定

色川武大さん、マルセが本を書きました。
あなたが愛した芸人が、
可笑しくて哀しい人々を鮮やかに書きました。
彼の演技力は、
この観察力、洞察力が支えていたのです。
この本を開けば、
そこに小劇場、そして開幕です。

永 六輔

芸人マルセ太郎の珠玉の名著！
面白くてためになり、可笑しくて哀しい！

げいにんだましいい 芸人魂

講談社
定価千八百円

お近くの書店で、ご注文下さい。

「出口なし」、ベケットの「ゴトーを待ちながら」他、出演。

1986年、劇団夜想会を退団。フリーとして活躍。

1991年、劇団風の街に参加。

〔出演作品〕

・グループ座公演「J・シーザー」
「アントニーとクレオパトラ」(西川廣演出)

・人村プロデュース「面」(ふじたあさや作・演出)

・博品館プロデュース「おかしな二人」(酒井洋子演出)

・劇書房プロデュース「ローゼンクランツとギンデルスターンは死んだ」(鶴山仁演出)

・マルセ太郎プロデュース「黄昏に踊る」(マルセ太郎作・演出)

《齋藤昌子》

東京生まれ。

1949年、俳優座付属養成所二期生。

1951年、ラジオ東京(TBS)放送劇団一期生。ラジオ子供コンクール初

代会者(6年間)

1967年、俳優小劇場入団。

1979年、フリーとなり現在に至る。

〔主な舞台〕

「パッピージャニー」

「あの人は帰って来なかった」(51年度芸術祭優秀賞受賞)

「裸足で散歩」

他にギイ・フォアシアターの作品に多数出演

マルセカンパニー「黄昏に踊る」

「つるかめ荘は今日もワルツ」
「枯れない人々」

《今野誠》

山形県生まれ。

海軍音楽隊から戦後米軍基地バンドを経て、コミックに興味を持ち

1965年「トリオ・レ・ボンコツ」結成。その後バンドに改組「ボンコツ五重奏団」。1971年解散。

〔出演作品〕

マルセカンパニー「つるかめ荘は今日もワルツ」
「枯れない人々」
「真夏の夜の哀しみ」

《松山蕙》

東京都千代田区出身。番衆プロを経てフリー。

〔主な舞台〕

「ヴァニティーズ」
「虎」

「ガールフレンド」(自転車キンクリート)

「黄昏に踊る」
「つるかめ荘は今日もワルツ」
「真夏の夜の哀しみ」(マルセカンパニー)

《梨花》

東京都出身。1991年〜1994年にかけて世界17ヶ国を放浪。旅で見聞きした雑話集を語り、「吟遊話人」としてライブ活動を行う。

1996年2月「バクシーシ放浪記 VOL.1」

6月「バクシーシ放浪記 VOL.1」

スタジオBeフリー

10月「バクシーシ放浪記 VOL.3」
スタジオBeフリー

その他「六輔もんでん劇場」
「六輔その世界」にゲスト出演。

あとは、
台本だけ。
解説

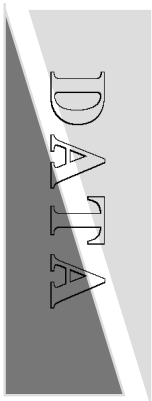
「花咲く家の物語」

「花咲く家の物語」について

この物語にはモデルがあります。金沢の郊外に「若人の家」と称する知的ハンディキャップを持つ人達の暮らす家がありました。この家に「施設」という表現は当たりません。というのも、この物語の主人公である小杉孝志・康子夫妻がどこからの援助もなく六人の子ども達との共同生活の場を作り、十年間生活を共にしてきたのです。その生活もある事情によって終止符が打たれることになりました。「花咲く家の物語」はこの「若人の家」を舞台上に繰り広げられる人間喜劇です。

マルセ太郎と「若人の家」は個人的な交流がありました。その体験を通じて、ぜひ舞台上で公演してみたいと思うようになりました。それも喜劇として…。これまでも社会問題を扱った作品は数々ありますが、喜劇として取り上げた例は少ないのです。この舞台では笑って笑っているうちにやがて深い想いに包まれる、そんな作品にしたいとマルセは考えています。

ほら、見たくなかったですか？



出演者プロフィール

《矢野陽子》

1973年、演劇集団「ぐるーぷえいと」結成。舞台を中心に活動。「塩祝申そう」「鯉群」で第23回伊國屋演劇賞団体賞受賞。

1993年、「ぐるーぷえいと」解散。マルセ太郎主宰演劇集団「マルセカンパニー」に参加
「主な出演作品」
川崎照代作・藤原新平演出「塩祝申そう」「鯉群」「港の風」三部作
進藤兼人作・藤原新平演出「女の声」
有吉佐和子作・藤原新平演出「山彦ものがたり」シンガポール公演
マルセ太郎作・演出「黄昏に踊る」「くるかめ荘は今日もワルツ」「枯れない人々」「真夏の夜の哀しみ」

《永井寛孝》

愛知県生まれ。
1978年～1989年、劇団テアトル・エコー在籍。
1989年、(株)プライムワン(プロダクション)所属。
1992年、所属を離れ、フリーとなる。
「舞台出演」
テアトル・エコー本公演。白桃房舞踏公演。マルセ太郎プロデュース公演他、多数。
「1996年の舞台」
出演/1月 マルセカンパニー「枯れない人々」
出演/2月 遊歩企画「プ・プ・プ・プ・プ・プ・プ・プ・プ・プ」
脚本・演出・出演/4月 おっ、ぺ
恋はコソッと」

《浅地直樹》

「主な舞台出演」
・グループ座カンパニー「夏の夜の夢」「ロミオとジュリエット」
・アクターズハウス「金色夜叉」
・シエークスピア・カンパニー「ハムレット」
・東京芸術プロジェクト「山彦ものがたり」
・クレイン・リバー・ワーク ショップ「じゃじゃ馬ならし」
・タイタニック・プロジェクト「タイタニック号の沈没」
・みなと座「女相撲」
・セカンドカンパニー「小夜曲」
・文学座「好色一代男」「好色一代女」「ザ・ボーイズ」「特ダネ狂騒曲」

《本牧ラゲビッカーズ》

(小林祐作演出/本多劇場)
「さすらいのジェニー」(唐十郎作演出/浅草下町唐座)
「少女都市からの呼び声」(唐十郎作演出/浅草下町唐座)
「毛皮のマリー」(寺山修司作/渋谷ジャンジャン)
「ベニスの商人・墜ちもおちたり」(横沢彪作/銀座セゾン劇場)
「幕末太陽伝」(河毛俊作・演出/銀座セゾン劇場)
「真夏の夜の哀しみ」(マルセ太郎作演出/渋谷ジャンジャン)

《維田修一》

1961年、俳優養成所10期生卒業後、劇団「新人会」入団。解散後、田中千禾夫、渡辺美佐子らと演劇集団「兆」結成に参加。同解散後フリー。千田是也演出作品(プレヒト作品)田中千禾夫作・演出作品 観世栄夫演出作品 別役実作品(企画「66」)等、舞台出演多数。

《三浦賢一》

1978～1985年、劇団状況劇場在籍。唐十郎作品15本に出演。
1988年、「BS 向田邦子新春スペシャル」男どき女どき(久世光彦演出)で映像デビュー。その後、テレビ・映画など出演多数。
1993年、第1回読売演劇大賞最優秀作品賞T・P・T公演「あわれ彼女は娼婦」(デヴィッド・ルヴォー演出)出演。
1994年、第49回芸術祭賞受賞T・P・T公演「エリダ〜海の婦人」(デヴィッド・ルヴォー演出)出演。1995年、T・P・T公演「チェンジング」(三人姉妹)(デヴィッド・ルヴォー演出)出演。

《川田栄》

脚本・演出/5月 栃木県ジュニアミュージカル協会「どりーみんぐ」
「スーパード」
脚本・演出/6月 テアトル・エコー企画公演「みんな・デ・ランチ」
演出/7月 WAKUプロデュース「Help! せっぱつまった人たち」
脚本・演出・出演/8月 おっ、ぺ
恋はコソッと」

《藤原常吉》

秋田県出身。
ホンダスタジオを経て唐組旗揚げメンバー
「主な出演作品」
「グレイクリスマス」(斉藤燐作/本多劇場)

《人村朱美》

福井県敦賀市生まれ。
1974年～1975年、劇団俳優小劇場公演コースを経て劇団印象舞台創立に参加。
1979年～1981年、木冬社に入団。「楽屋」あらかじめ失われた恋人たちよ」他に参加。木冬社を退団して劇団夜想会創立に参加。サルトルの

「主な出演作品」

「主な出演作品」

「主な出演作品」

「主な出演作品」



全国マルセ太郎中毒患者会
機関誌「さるさる」
発行：スタジオ Beフリー
編集責任者：立木寅児
〒201東京都狛江市岩戸北1-7-9
協力：(株)プロダクション 人力舎
定価：¥100
年間購読料
部数×[¥100+送料(¥100)]

マルセ喜劇第5弾
「花咲く家の物語」特集
人間の本质にせまる
マルセ喜劇の意欲作!

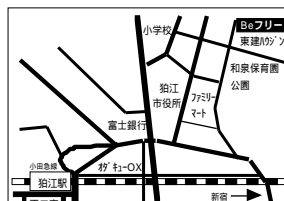
金沢市の郊外に若人の家と称する花咲く家がありました。
そこは若い夫婦と知的ハンディキャップを持つ青年達との愛情溢れる交流の場でした。
ここを舞台に繰り広げられるマルセ太郎作の人間喜劇。
笑いは、いつしか感動に変わります。

《公演会場》

- 4月12日(土)
金沢市 文化ホール
主催・石川テレビ
TEL.0762-63-1566
- 4月13日(日)
富山県 教育文化会館
主催・問い合わせ
TEL.0764-41-0399
みやあらく座
- 4月14日(月)
福井県 県民会館
主催・問い合わせ
TEL.0776-33-7447
人形と語り座
- 4月23、27日
東京 芸術劇場小ホール
主催・問い合わせ
TEL.03-5378-0211
人力舎
- 5月8日(木)
栄・名古屋芸術創造センター
主催・問い合わせ
TEL.052-202-1339
水谷
- 5月10日(土)
大阪 近鉄小劇場
主催・問い合わせ
TEL.06-771-4729
- 5月11日(日)
広島 県民文化センター
主催・問い合わせ
TEL.082-291-7615
広島マルセ中毒患者の会



マルセ太郎の住む狛江の小劇場
100人の顔の見える小劇場



音響・照明完備
映像設備有り
ライブ・催し物
格安にて

マルセ太郎の公演のご相談は



内田事務所 〒151 東京都渋谷区代々木2-19-3野崎荘101
PHONE (03) 3378-6458 FAX (03) 3378-6582

全国マルセ太郎中毒患者会
機関誌「さるさる」

最近！手が震えたり、ぶつぶつと独り言を
言ったりしませんか
そんなとき、さるさるを手にしましょう。
お申し込みは

郵便振替 00140-9-758475
トークンスタジオ Beフリー
TEL:03-3430-7328
FAX :03-3430-7531